

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891500021
法人名	医療法人 中野クリニック
事業所名	グループ・ホーム アンダンテ
所在地	東温市志津川1578-1
自己評価作成日	平成24年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・より質の良いケアを提供するため、利用者様の生活歴や嗜好など様々な情報を本人様や家族様から聞きとったことをまとめ、職員が常時閲覧して支援に活かしている。また、ケアの詳しい内容を個別に書き出すことで、職員の情報共有を促しケアの統一を図るよう努めている。 ・災害等の緊急時への対応として年2回の救急救命の講習、年2回の消防訓練を行い利用者様の命を守るための方法を全職員が学び、実践できるよう努めている。 ・夏祭りには地域住民を招待し、出店や花火観賞等楽しみながら信頼関係を強め、当施設・利用者様について理解深めていただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●職員は、「地域にとけ込んだ事業所になりたい」という気持ちで、地域の方達とおつきあいをされている。地域祭には、事業所前の母体病院の駐車場が神輿の休憩所になっていることで、多くの方が事業所の存在を知っている。又、事業所の活動等を載せた「アンダンテだより」を回覧板で回してもらっている。事業所には、地域のボランティアの方達の出入りも多く、利用者を覚えてくださっている方も増え、散歩時、顔見知りの方に会うことも多くなっている。職員が畑の手入れをしていると地域の方がほめてくださったり、野菜の作り方を教えてくださることもある。事業所の敬老会には、地域の高齢者を招き、利用者とともに祝われ、職員が歌等の出し物をして楽しんでいただいた。又、7月には、「東温ジュニアハーモニー」の子ども達が来てくれて、歌と手遊びでふれ合い、涙を流して喜ばれた利用者の方もみられた。「ハーモニー」の演奏会がある時には、利用者も見に行かれています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム・アンダンテ

(ユニット名) 西ユニット

記入者(管理者)

氏名 大栄 由佳

評価完了日

平成24年9月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設内3カ所の見やすい場所に理念を掲示し、職員間で共通理解し、理念の実現に向けて日々積極的に実践に取り組んでいる。また、当施設独自で自己評価を行い、振り返り実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 法人代表者は、「幸せをお届けします」という法人理念と、利用者の「優しく笑顔のある生活」「安心してゆとりのある生活」「個々が役割を持ちその人らしい生活」が支援ができるように、事業所理念を作成されている。又、地域ボランティアを受け入れたり、地域行事に参加する機会を積極的に作る等して、「地域の方達と行き来ができる開放的な事業所作り」を目指して取り組まれている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事への参加や地域の商店での買い物等、地域の方々との交流を深めている。また、地域ボランティアや学生の実習も積極的に受け入れている。夏祭りには、毎年、家族様や地域の方を招待し楽しまれている。理事・施設長が地域住民であり、積極的に町内活動に参加し交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 職員は、「地域にとけ込んだ事業所になりたい」という気持ちで、地域の方達とおつきあいをされている。地域祭には、事業所前の母体病院の駐車場が神輿の休憩所になっていることで、多くの方が事業所の存在を知っている。又、事業所の活動等を載せた「アンダンテだより」を回覧板で回してもらっている。事業所には、地域のボランティアの方達の出入りも多く、利用者を覚えてくださっている方も増え、散歩時、顔見知りの方に会うことも多くなっている。職員が畑の手入れをしていると地域の方がほめてくださったり、野菜の作り方を教えてくださることもある。事業所の敬老会には、地域の高齢者を招き、利用者とともに祝われ、職員が歌等の出し物をして楽しんでいただいた。又、7月には、「東温ジュニアハーモニー」の子ども達が来てくれて、歌と手遊びでふれ合い、涙を流して喜ばれた利用者の方もみられた。「ハーモニー」の演奏会がある時には、利用者も見に行かれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営者が認知症の専門医であるため、地域の研修会の講師として指導したり、地域住民の要望に応じてアドバイスをしたり、運営推進会や家族会などを通して地域住民に対して認知症の理解を深めて頂いている。広報誌等でも、啓発に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者様の生活や健康状況、ホーム内の行事やグループホームとしての運営状況、外部評価の結果を報告している。家族様や利用者様、市福祉関係者等多様な会議メンバーとの意見交換を通し、サービスの質の向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、法人代表者も参加されており、2ヶ月に1回、月曜日の15時から開催されている。時には、法人の地域密着型特養施設と合同で行っておられる。管理者は事業所の活動を報告して、参加者に意見を求めておられ、ご家族から、「みなで作った作品を市の文化祭に展示してはどうか」とすすめていただき、今年は、「コスモスの絵や折り紙を貼って作った作品」を展示することになっている。展示された際には見に行くことを計画されていた。地域の高齢者の方からは、「ゆっくり話してもらわないと聞き取れないこと」等、ご自分の体験等を話してくださり、職員は、聞かせてもらったことを心がけてケアに取り組むようにされている。法人代表者は、「高齢者の特徴」等についてお話くださり、勉強するような会議にもなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域包括センター訪問、運営推進会議や地域における介護ネット、地域密着型サービス施設情報交換会に積極的に参加し情報交換を行ったり、指導・助言を実践化に生かしサービスの質の向上に繋げるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 他市の方が、事業所のうわさを聞いて、利用希望で事業所を見に来られるようなこともあったが、「事業所を利用できるのは、東温市に住む方のみ」であることを伝えて、他市の相談窓口を案内された。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束廃止についてのマニュアル指針に沿って研修会を行い、職員全体が身体拘束について正しく理解し、ユニット会・職員会等で一人一人の利用者様について身体拘束をしていないか検討しあっている。見守りと所在確認を十分に行うよう努め施錠はしていない。</p> <p>(外部評価) 入居後、利用者の状態をまだ把握しきれていないような時期には、職員は利用者の行動を止めることなく、又無理強いすることなく、寄り添いながら見守るようにされている。昼食後、座っていて「お尻が痛い」と言われる利用者には、少し居室で横になれるよう、声かけて支援されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会等を通して、職員全体が虐待について正しい理解に努めている。カンファレンス等で、利用者様の日常生活の様子を職員全員で共有している。利用者様を中核に捉え一人一人を大切にしたい生活の実現に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) これまで制度の利用者はいないが、制度についての研修に職員が参加している。今後は職員間で理解を深め必要性が発生した場合、適切に活用していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、利用に際してのサービス提供の内容・権利・義務等を、契約書や重要事項説明書に基づき説明し、理解していただくよう具体的に話し合い、納得して頂き契約をしている。改定等については、迅速・丁寧に連絡・説明し、理解をいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様とはコミュニケーションや極め細かな観察により、思いや願いの実現に努めている。定期的に行事等と合わせて家族会を開催し、多くの家族様が参加されている。会の中で職員全員出席し家族様だけで話していただく時間もあり、多様な意見を頂戴して運営に反映させている。運営推進会議では評価結果やアンケート結果も公表し運営について忌憚のない意見をいただき、運営改善に役立てている。苦情相談窓口・意見箱等により、家族様の要望や意見の収集しており、結果は運営会や広報誌等で報告している。 (外部評価) 事業所では「ご家族と会話する」ことを心がけ、小さな意見であっても早急に対応できるよう努め、信頼関係作りを努めておられる。ご家族が「利用者を事業所に預けている」ことへの思いを話されたり、ご家族ご自身や家庭のこと等を話していただくこともあり、「ご家族の気持ちが楽になり、又、来ようと思えるよう」にかかわっておられる。玄関のボードには、ご家族が来られた際見てもらえるように、行事の様子等の写真を掲示されている。調査訪問時、ご家族の訪問があり、ご家族が帰る際、利用者は、姿が見えなくなるまで手を振って見送っておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 東西ウイング会、職員会、業務改善委員会での意見や提案を運営に反映している。日々の申し送りに管理者が出席し、意見や提案が出しやすい環境にしている。また、日ごろから職員の意見を十分に聴くよう心がけており、気づきやアイデアを気軽に言える体制になっている。	
			(外部評価) 今回の自己評価はすべての職員が個々に取り組み、管理者がまとめられた。職員は、評価項目をみてグループホームに必要な取り組みを知る機会にもなっており、ケアのガイドとしても活用されている。管理者は、この一年を振り返り、地域交流やご家族との関係作り等、「新しいチャレンジをした一年だった」と振り返っておられた。職員は、利用者に喜んでもらえるような出し物を考えて敬老会等で披露されたり、「工作レクリエーション」では、季節に応じて図案を考えて、利用者と一緒に大作を作り、飾って楽しまれている。外部研修の際には、事業所から費用の援助があり、受講しやすい仕組みとなっており、職員のさらなる向学心につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は個々に個別目標を作成し、定期的な自己評価行うことでステップアップを図っている。代表者は職員の自己評価と面談により、職員一人一人の状況を把握し、条件等の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1度の勉強会をはじめ、外部研修については職員一人一人の力量に合った研修会参加を進めている。また、資格の取得を奨励している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域介護ネットや地域密着型サービス施設情報交換会等に参加し、近隣施設との連携・交流を深め、勉強会や意見交換会を行なっている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に事前面談を行ったり、本人が既に関わっている施設等から情報を得ることに努め、本人の希望や要望を聞き取り、安心して生活出来るように配慮している。アセスメントシートの活用で、職員全員が事前に情報を共有している。また、アセスメントシートもより良いものになるよう話し合い改善している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の相談及び契約説明時に、利用者様の生活歴・現況等の正確な情報把握に努めるとともに、不安なこと等、細部についても話し合い、ご家族が十分理解・納得された上での契約を結んでいる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人や家族様より相談内容を聞きながら思いを汲み取り、職員間で情報交換し適切な介護について細かに段階を踏んで支援し、利用者様本位の安心して穏やかな生活となるよう対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) グループホームの理念の現実を目指し、利用者様を中核に捉え、一人一人に応じた生きがいのある生活となるよう支援し、楽しさや感動、日々の生活を共有し、関係性と信頼を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の来訪時や日頃の電話連絡にて、ご本人の状況を報告し日常生活の様子を理解して頂いたり、要望等についても相談している。家族会や施設行事等は、気兼ねない様参加を呼びかけ、家族様との意見交換や、信頼を深める機会としている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様や親族・友人の訪問が多い。また、ドライブ等で、ご本人が馴染んできた地域の施設や季節の自然に触れられるよう出掛けている。また、ご本人と馴染みの深いボランティア団体からの慰問もあり、関係性の継続・発展に努めている。 (外部評価) ご家族がおやつ時間等に来られた時には、一緒におやつ作りをしてお茶を楽しまれることもある。又、受診時には、ご家族に車いすを押してもらったり、一緒に歩行練習をしてもらえる声をかけておられる。携帯電話でご家族とお話する方は居室に大きくご家族の電話番号を掲示されていた。ご自宅に時々戻る方は、ご自宅に帰ることを「楽しみ」にされ、又、ご自宅から事業所に戻ってくると、「ホッと」されるようだ。利用者はご自宅での様子を「よかったよ」と職員に話してくださる。地域のボランティアの方とは、地元の話題でお話も弾むようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性を把握し、職員が仲立ちとなって会話やレクリエーション等を通して関わり合いがもてるよう努めている。立ち上がる際手伝おうとされたりお互いに励ましの声をかけあっておられる利用者様もおられる。パステル画や生け花等、グループ活動への参加を勧め、共に楽しい時間を過ごされ関係を深められている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも、事業所への訪問や連絡の頂けるような関係作りに努めている。退所された方の家族様も、他の利用者様や職員を訪問することもある。依頼があれば、相談や情報提供も行なっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々、会話や表情生活全般を通して、思いや暮らし方の希望を汲み取り、支援の個別化に繋げている。特に困難な方には、家族様との話し合いの中から、昔の慣習や生活歴等を聞き取り、職員間で対応を検討し、本人に応じたサービス提供を工夫している。 (外部評価) 七夕には、利用者の願いごとを書いた短冊を笹に飾ったり、利用者の好みや希望、夢等、項目を作り、利用者から得た情報をまとめておられるユニットもあった。介護計画作成前に職員でサービス担当者会議を開き、情報を持ち寄り、日頃気付いたことを話し合い、介護計画につなげておられる。	利用者が重度化して、ご自分で意思表示が難しくなっても、「その人らしい生活」ができるよう、個々の「これまでのこと、現在のこと、これからのこと」についての情報収集に取り組み、ケアの手がかりにされてほしい。事業所の理念にも沿ってアセスメント等を工夫されてみてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、利用者様・家族様より情報を収集、又、来所時に新たな情報を頂いたり、利用したことのある他施設の情報から利用者様が馴染みの環境で安心した生活が継続できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝の申し送り等で、その日の心身状態に合わせて対応している。現状理解や有する力を把握して、残存機能が有効に活用できるよう申し送りやウイング会で適切な支援の方法を話し合い、実践に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者様、家族様の意向を日頃から汲み取るよう努め、介護計画を話し合い作成している。又、サービス担当者会議や随時行うケアカンファレンス等にて、職員全員で話し合い、必要な方には主治医の指導・助言を受けて、現状にあった介護計画となるよう努めている。</p> <p>(外部評価) ご家族には、日々の中で困っていることやケアへの希望をお聞きしているが、介護計画を作成する前にもその旨を伝えて、希望を聞くようにされている。又、ご本人にも計画作成前にも、お聞きして採り入れるように取り組まれている。計画は、毎月モニタリングして、3ヶ月ごとに評価を行い、見直すようになっている。主治医である法人代表者からも利用者の状態や服薬による身体への影響等を教えていただき、ケアに採り入れるようにされている。</p>	<p>利用者一人ひとり、「どのように暮らしたいか」という意向をもとに、利用者の持っている力や社会性、地域資源等も活かして、利用者ご本人がいろいろな人とかかわりながら暮らし続けられるよう、支援内容等を工夫してみてもうだろうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子はケアプランに重点を置いた形式で介護日誌や個別記録に記録している。又、申し送りノートを活用しホーム内での細かい情報を全職員が共有し、実践に反映している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ニーズはできる限り受け入れ、個々に応じたサービス提供に努めており、施設としてできることは柔軟に対応し、利用者様に安心して豊かな生活が送れるよう配慮している。利用者様や家族様の状況に応じて、通院や外出、送迎等の必要な支援をしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域ボランティアの方による、楽しい行事が年々増え、協力により踊りや演奏会等の慰問をうけたり、生け花やパステル画は毎月実施し、利用者様の持てる力を発揮できるよう支援している。また、地域の施設や行事へ出掛けることにより心身をリラックスし、豊かな生活となるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 運営者が病院長であり、ホームに隣接しているため緊急時等も含め適切な医療を受けられる対応ができています。受診については家族様と話し合い、必要があれば専門医療機関を紹介したり、入所前からのかかりつけ医を希望される時は、受診出来るよう支援しています。受診時は職員が付添いや送迎をし、必要に応じて家族が同行することもある。	
			(外部評価) 利用者は、隣接する母体病院で診てもらっている。職員は、日常的に医師に利用者の状態を伝え、又、医師も事業所に利用者の様子をよく見に来られている。そのような体制に、ご家族も安心を感じておられる。ご家族が利用者の体調面で不安や心配事がある時には、直接、医師に相談等をされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者様の健康・服薬状態等、体の状況について看護師に相談・報告し、医師の指示にて受診や処置等の適切な看護が受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時に情報を提供し、入院後職員がお見舞いに行く際には、必要に応じて入院先に医師との面談により情報把握に努めている。家族様と退院後の生活が不安にならないよう、受け入れ態勢や退院後の生活について相談している。入院先と院長が治療について情報交換が密にできているので、経過・対応等分かり安心できる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期については指針を作成しており、入居契約時に家族に説明を行なっている。その事態が発生した時には家族との話し合いを適宜に持っている。職員会や研修会で院長より方針やターミナルケアについて指導を受け、職員共通理解のもと、本人・家族が安心して生活いただけるよう医師・看護師と連携して取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人代表者である医師が講師となり、日頃から職員は看取り支援について勉強されている。利用者やご家族は「事業所で自然に最期を迎えたい」と希望する方がほとんどであり、法人でも、希望に沿った支援ができるよう取り組まれている。又、ご家族の不安の軽減にも配慮して、話し合う機会を多く作っておられる。事業所ではこの一年の間に、1名の利用者の看取りを支援された。「何か本人にしてあげられることはないか」と、ご家族から申し出があり、ご家族が利用者の足を拭いたり、着替えにかかわれるよう支援された。ご家族は、利用者が以前からよく利用していた菓子屋のおまんじゅうを買って来られたり、ご本人がお好きな麴で作った甘酒を持って来てくださり、時には宿泊して職員とともに看取られた。看取りを経験した職員は、利用者の「一瞬一瞬を大切にしたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを理解し、迅速に対応がとれるよう研修を実施している。また、今年度は年二回の救急救命の講習を予定しており、一回目は終了している。全ての職員が講習を受け実践出来るよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、利用者様と共に火災や地震を想定した避難誘導訓練、消火訓練を行っている。夜間訓練、発生場所等についてはその都度変更して総合訓練、ユニット訓練を実施して安全な避難訓練を行い利用者様の命を守っています。近隣の方々にも案内し、訓練へ参加依頼をしています。その際、消防署員立会って実施しており、適切なアドバイスを頂いている。また、運営推進会議にて地域に出来ることを提案し、災害時には地域へ避難場所として当施設を開放し、向かいのクリニックは周辺地域の緊急対応場所として開放したりと、相互体制整備に努めている。周辺地域の自警団との相互体制も進めている。 (外部評価) 夜間を想定した避難訓練を年2回実施されており、災害時には、事業所前の駐車場に避難するようになっている。利用者も訓練に参加し、避難に要する時間も計ってみられ、現在は約10分で避難できるようだ。事業所は平屋作りで居間や廊下等、四方から直接外に避難できるようになっている。水やバランス栄養食を備蓄されている。事業所の所在する地域では、自主防災組織の取り組みはこれからのようで、法人代表者は、消防や市の担当者の方に、「災害時には、地域の方達に事業所を使用してもらいたい」と伝えておられる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日常的に利用者様一人一人の人権を尊重し、利用者様は人生の先輩であり敬うことを共通認識しプライバシーや誇りを重視する細やかなケアを心掛けている。 (外部評価) 職員は、利用者とお話する時には目の高さに気を付けるようにされている。又、利用者が言葉に詰まったような時には「待つ」ことに心がけておられる。みなが集まるような時には、利用者の方に代表であいさつをしてもうよう場面を作ったり、入浴時には、できる限りご自分で衣服を着脱したり、ご自分で洗える部分は洗うことを支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) いつでも何でも言える親和的・家庭的環境作りに努めている。利用者様の思いや願いを知ること努め、寄り添った関わりをもち本人が必要な場面で自己決定できるよう支援し、その後も生き生きと生活出来るよう見守っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様の思いや願いに耳を傾け、心身状態に合わせて一人一人の希望に添えるよう支援している。一日をトータルで捉えその人らしい生活ができたか気をつけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に訪問理美容サービスを利用して、利用者様の希望に応じたカットや毛染め等をしている。着替えの際には本人に洋服の選択をして頂いたり、その人にあったものを選んで。また、身だしなみを意識できるような声かけを行い、清潔で心地良い身だしなみとなるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な利用者様は、調理・下膳・片付け等を一緒に行っている。施設で収穫した旬の食材を取り入れ、食への意欲を引き出せるよう努めている。また行事やお祝いごとの時には、特別献立を提供し喜ばれている。おはぎや柏餅など馴染みのあるものを昔の力を発揮し職員へ教えて頂いたり、利用者様が主体的に調理から食までの過程を楽しく行えるよう支援している。 (外部評価) 職員は、ホワイトボードに今日のメニューを書き込み、食事前、口腔体操等を行った後、利用者にメニューを読み上げていただき、みなに知らせてもらっている。その後、職員のかけ声で「いただきます」とあいさつしてから、職員が利用者一人ひとりに配膳をされている。調査訪問日はちょうど「お朔日」で、又、事業所開設6年目を迎えたこともあり、もち米と小豆で赤飯を炊いておられた。又、趣向を替えてお弁当箱に詰めて食事をされたり、食べたいものをお聞きすると「お肉が食べたい」と言われ、ホットプレートを使って焼き肉等も楽しまれている。ユニットによっては下膳をする利用者もみられた。	事業所ではおいしい食事を作り、「できる限り口から食べる」ことに力を入れておられる。利用者の状態のこともあり、「利用者のできることが減っている」ようだが、個々ができること、できそうなこと等をアセスメントして、利用者が主体の生活を職員で支えていかれてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事量をチェックするとともに、水分摂取に配慮や介助を要する方は、不足しないよう水分摂取量に気を付け、栄養やメニュー、食事形態については、一人一人の状態に応じたものを工夫し、提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声掛けと、ご自分で出来ない方は介助にて口腔ケアを実施している。就寝前の口腔ケアは義歯を外し洗浄剤を利用して対応し、口腔内の状態を把握している。嘱託歯科医に口腔ケアについて指導・助言をして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や、声かけをし排泄の自立に向けた支援を行い、日中パットやオムツを外して生活されるようになった利用者様もおられる。出来るだけ残存機能を活用していただき、ご自分でできない所は手伝わさせていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「トイレのことが気になるから、出かけることをためらう」ような利用者もいる。外出行事時には、職員は、事前にトイレの設備状態等を把握して「大丈夫よ」と声をかけ、出かけられるよう支援されている。紙パンツを使用して入居された方もあるが、職員は排泄の状態等をみて、トイレ誘導して布パンツに改善できたような事例もある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排便を記録し、利用者様の排泄パターンを確認している。食事に繊維質のものを取り入れたり、乳製品や水分の摂取等、一人一人に合った対応を行っている。散歩や体操、腹部のマッサージを行う等、個々に応じて対応している。また、便秘が重度化しないよう、看護師・嘱託医に相談し対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>その日の体調や都合に合わせ、一人一人の状況に応じた方法により、安全な入浴ができるよう努めている。入浴後には、希望に応じた保湿液等を使用している。希望の入浴回数・時間により、快適な入浴となるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>壁まわりが檜の浴室は、香りを楽しみながら入浴できるようになっている。終末期を迎えた利用者で、ご本人は以前からお風呂好きでご家族からも「できる限りお風呂に入らせてあげたい」との希望もあり、職員は、状態等もみながらお風呂に入れるよう支援をされた。利用者は、湯船に入ると「いい湯だな～」と、歌を口ずさまれたようだ。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様が安眠の状態に導くように日中は適度な運動やレクリエーション等を心がけたり、心地よく休息できるようアロマオイルを焚いたり夜間安眠できる生活リズムを整えるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬表を個々にファイルし、職員が薬把握し効能や副作用などを理解している。薬は飲みやすくするためにできるだけ一包化し、職員が手渡し又は口腔内に服薬するように支援し誤薬がないよう確認している。内服薬が変更になった場合は、特に症状の変化の確認に努め、申し送りノートなどでの情報共有に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味や得意分野を把握し、一人一人に合った活動ができる環境作りをしている。掃除・調理・洗濯等の手伝いにより、役割を持って生活して頂いている。また、散歩やドライブ等で気分転換を図ったり楽しみのある場面作りを提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に利用者様の気分や体調を伺いながら、散歩やドライブ等の支援を行っている。地域の祭や行事への参加、買い物や観劇等に外出の機会を増やすよう努めている。また、自宅に戻り馴染みの方々との交流を図れるよう、家族様と協力し送迎等支援している。	利用者の希望に沿った支援に努めておられるが、ご自分から希望を言われぬような利用者への支援は、少な目になりがちのようだ。さらに、利用者が「出かけてみたい」と思えるように場面作りを工夫されたり、利用者個々の懐かしい場所や思い出の場所等にも出かけてみるような機会を作ってみてほしい。
			(外部評価) 畑でスイカを育てたり、近々さつまいもの収穫をする予定になっている。毎月、職員が設備等を事前に調べて、外出する計画を立てておられ、10月は動物園に出かけるようになっていた。又、ドライブされたり、市内の坊ちゃん劇場に数名で出かけた際には、劇を楽しまれたが、利用者にとってはトイレが不便な点もあったようだ。又、「食中毒の心配」もあり、現在は外食する機会はあまりないようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来る方については所持していただき、必要に応じて外出時に使って頂いている。利用者様の要望に合わせて買い物をしてもらい、本人が支払いをしている方が所持されている方は少ない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持ち、毎日、ご家族様と話をされている利用者様もいる。また、手紙のやり取りの際には、投函の依頼があればお受けしている。夏には暑中見舞い、冬には年賀状のハガキ作りを手伝い、投函できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者様が集まる食堂や玄関には、季節に応じた生花や観葉植物、手作りの飾り物等を配置している。施設横の畑では季節に合わせた野菜を栽培して収穫、調理し楽しませている。共用の空間は採光・空調・換気等、工夫された設計であり、灯りやエアコンの調整をこまめに行ったりして心地良い環境を整えている。トイレや各居室には案内の表札をつけたりして不快や混乱のないよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者はお花がお好きな方が多く、職員は、「お花がきれいねと喜べるような日々を支援したい」と考えておられる。生花クラブで花を生けたり、テーブルには庭で摘んだ百日草等を生けておられ、利用者は水替え等も気にしてくださっている。調査訪問日の昼食後には数日前の敬老会のビデオを点けられ、テレビに映るご自分の姿をみて、手を叩いてよろこぶ様子もみられた。外から虫の声が聞こえてきて、大きく取ったガラス窓からは、お天気や利用者にとって見慣れた山や畑の風景が見え、季節の移り変わりを感じられる。調査訪問時には、事業所の前のベンチに座っている利用者がおられ、立ちあがって笑顔であいさつをしてくださった。近々事業所内でユニット対抗の「運動会」を行うことが予定されており、ご家族もパン食い競争等に参加されるようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 外にはベンチが置いてあり、ホールにはソファを置いて、憩いの場としてスペースを広く確保しており、思い思いに過ごせるような共用空間となっている。常に居場所を確認しご利用者様にとって、安心して日常生活を送れるように居心地の良い環境作りに努めている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 寝具やタンス、冷蔵庫や仏壇、家族の写真や、飾り物など本人様思い思いの馴染みの品を持ち込まれ、心地よく安心して過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 昼食後には、窓辺のカウンターに座って日記を書く方がみられた。信心深い利用者の方は、お部屋に置いておられるご主人の遺影に手を合わせておられる。ベッドの柵に時計を付けて、体操の時間等、今日の予定を書いて貼っておられる方もあった。読書がお好きな方はお部屋にテーブルを置いて、ご家族が持って来られた本を夜間に読んでおられる。ご家族は衣替えやシーツ交換に来られている。習字の得意な方は、ご自身の作品を貼っておられた。又、利用者が居室に案内してくださり、ひ孫さんの写真を指差して、「わたしのエンジェルよ」と紹介してくださった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人一人が安心して安全に生活できるよう設計されているが、居室やトイレ、お風呂を間違わないように、高さにも配慮し表札をつけわかりやすくしている。迷い等があった場合はその都度、職員が対応しており、利用者様個々の能力に応じた生活ができるよう、物の配置に配慮するなど環境整備にも努めている。</p>	